

〔研究ノート〕 澤瀉久敬の医学哲学に関する覚書き

越智秀一（倫理研究所客員研究員）

はじめに

澤瀉久敬（1904～1995）は、日本におけるベルクソン研究の草分けとしてよく知られている哲学者であるが、同時に医学を本質的に考察するという世界にも類例の少ない仕事である『医学概論』の著者でもある。彼の『医学概論』は、「科学について」「生命について」「医学について」の三部構成となっており、大部の著作であるが、発刊後五十年になろうかとする今日においてもこの仕事の意義について、踏み込んだ言及をなす者は少ない。本稿もまた、研究というより、その予備段階としてのノートの色合いの濃いものであるが、澤瀉の『医学概論 第一部 科学について』の新装版が先年誠信書房より出版されたのを機にそれをテキストとして、澤瀉の思索が医学という営みにとって持つ意味を考察しようとするものである。